



大本山永平寺参拝記念 2013年9月16日

平成 25 年 №46
秋ひがん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
でんわ047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

暑さ寒さも彼岸まで

当山住持

暑さ寒さも彼岸までの「秋彼岸」がめぐってまいりました。今年の夏も年々深刻になる温暖化気象を受けてか、大変な猛暑でありました。反面、日本列島各地は「かつて経験したことがない」と言われるほどの大雨、集中豪雨にたびたび襲われました。まさに、大自然の強威や天災の恐ろしさをいやと言うほど認識させられました。

彼岸月に入っても厳しい残暑の中、九月八日にアルゼンチンのブエノスアイリスで開かれた「国際オリンピック委員会総会」において、二〇二〇（平成三十二年）の夏季五輪オリンピック大会の開催地が、日本 東京に決定しました。日本での夏季オリンピックの開催は、

一九六四（昭和三十九）年以来、五十六年、約半世紀ぶりとなります。日本の前回大会は、戦後日本の復興発展の大いなる活力となり、日本中が元気づけられた有意義な大会であったと伝えられています。二〇二〇年の東京オリンピックも、東日本大震災の復興を第一に、日本や世界の人びとがスポーツを通じて心豊かに、物心共に調和のとれた、稔り多き平和な大会となることを切に切に祈念申し上げます。

当山 新井寺では、お彼岸を前に今月十六日から十八日にかけて、檀信徒の皆様と共に曹洞宗の両大本山のひとつ大本山永平寺をはじめ、曹洞宗ゆかりの古刹である大本山總持寺祖院（石川県輪島市）、永光寺様（ようこうじ石川県羽咋市）、御誕生寺様（福井県武生市）を報恩参拝させていただきました。それぞれに思いをこめて参加された皆様には、いよいよ信仰心を高められ、功德法悦に浴されたことと同慶至極に存じます。お彼岸は、世の中のすべての人びとが平和でありますよう説かれて、「心の修養期間」です。どうぞ、皆様方におかれましても、お彼岸の行事を有意義にご精進ください。

合掌

大本山永平寺参拝とけい山禅師ゆかりのお寺をたずねて

既報の通り、九月十六日から十八日にかけて、曹洞宗の両大本山のひとつ、大本山永平寺をはじめ、曹洞宗にゆかりの深い北陸のお寺を参拝してまいりました。出発の十六日は、台風十八号が日本列島を大暴れした大変な荒天となりましたが、仏さまのご加護のもと、無事に予定通りの参拝旅行を円成することが出来ました。

○ 大本山永平寺

福井県吉田郡永平寺町

バスに揺られること九時間半余り、午後三時半、無事に到着した雨上がりの永平寺は、しっとりとした深い杉木立の中にわたしたちを迎えてくれました。まず、永平寺歴代の禅師様の墓苑、「寂光苑(じゃっこうえん)」をお参りしました。寂光苑には、新井寺の先代方丈様のお師匠様 高階瓏仙(永平寺七一世・たかしなろうせん)禅師様も眠っていらつしやいます。特に、高階禅師様のお墓に皆でお線香を手向け、お経を讀んでお参りさせていただきました。

永平寺の晩は、入浴、薬石(やくせき・夕飯)、坐禅堂での坐禅、講話、永平寺の一年間を映したドキュメンタリービデオを拝見し、九時に開枕(かいちん・就寝)。翌朝は、三時二十分 振鈴(しんれい・起床)、講話を拝聴、永平寺で最も高い場所にあるご本堂で、ご開山 道元禅師様にお焼香し、新井寺参拝団一同の先祖供養をお勤めいただきました。

百人以上の和尚さんが読むお経は、重厚なハーモニーとなつて心に響きました。ご供養の後、福山諦法(ふくやまたいほう)禅師様を拜問(はいもん・相見・面会)、親しくお話をいただき、記念撮影もお願いしました。その後は、修行僧の方のご案内のもと、諸堂拝観、小食(しょうじき・朝食)をいただき、下山(あさん・おいとますること)しました。台風が季節を早めたのか、

永平寺の朝は晩秋のような肌寒さでした。「ご本山」「修行道場」という環境に重ね、さらに凜とした空気の中で参拝をさせていただくことが出来ました。

○ 御誕生寺(ごたんじょうじ)

福井県越前市

永平寺から約四十分走ったところに、御誕生寺様がありました。御誕生寺様は、瑩山(けいざん)禅師様がお生まれになった街に建てられたお寺です。心が温かくなるようなお顔の等身大以上のお地藏様とたくさんの「猫」たちが迎えてくれました。「ご本堂では、「大般若(だいほんにや)」



板橋興宗禅師様
於、御誕生寺様ご本堂

という特別な法要をお勤めくださいました。ご住職の板橋興宗禅師様は、御誕生寺様のお話の後、檀信徒にお声をかけながら百七歳の木彫家・平櫛田中(ひらくしでんちゅう)さんの「六十、七十はなたれ小僧、男盛りは百から百から。今やらねばいつできる、わしがやらねば、だれがやる」という言葉を紹介され、親しくご法話をくださいました。その後、温かいお茶をいただき、ご本堂の前で猫たちも一緒に記念撮影。禅師様が先頭に立ち、修行僧のみなさんと見送ってくださいました。

○ 永光寺(ようこうじ)

石川県羽咋(はくい)市

御誕生寺様からバスで二時間半弱。途中、日本で唯一砂浜を車で走ることが出来る「千里浜なぎさドライブウェイ(全長



屋敷老師のお話を拝聴 於、永光寺様ご本堂

約八キロ)の波打ち際ドライブを楽しみ、永光寺様に到着。永光寺様は、瑩山禅師様 開山(お寺を開くこと)、示寂(じじやく・亡くなること)のお寺です。今からさかのぼること約七百年前、瑩山禅師様の教えを求めて永光寺様をたずね来る人びとでこぼこ道だった参道が踏みならされて平らになるほど、永光寺様は仏道修行と信仰(心のよりどころ)の道場として、大いに発展を遂げました。

どっしりとした趣の深いご本堂で「般若心経」を全員で読み、お焼香。ご開山 瑩山禅師様をはじめ、曹洞宗の教えを継承された五人の禅師様をお参りました。さらに、永光寺様を護つて

いらつしやる屋敷智乗(やしきちじょう)老師から、瑩山禅師様のこと・永光寺様の歴史などのお話を拝聴。その中で、永光寺様の開基様であり、後に瑩山禅師様のお弟子様となった黙譜祖忍(もくふそにん)様は、曹洞宗における初の正式な尼僧様とされているということもお聞きしました。

その後、美しい庭が見える書院でお茶をごちそうになりました。お茶の後、屋敷老師のご案内のもと、幽玄な雰囲気の廻廊階段を登り、開山堂「伝燈院(でんとういん)」へ。伝燈院には、曹洞宗の礎を築かれた如浄禅師様・道元禅師様・懐甞(えじょう)禅師様・義介(ぎかい)禅師様・瑩山禅師様の五人の禅師様のご木像がおまつりされています。木立の中、苔むした石段をさらにさらに登った奥には、その五人の禅師様のご遺物(遺品)が納められた「五老峯(ごろうほう)」がありました。

「よいしょ、よいしょ」と息を切らせて山上の五老峯をお参りし、曹洞宗の歴史の重みを身心をもって感じた参拝となりました。

○大本山総持寺祖院

石川県輪島市門前町

三日目、最終日の朝は、「輪島の朝市」で買物の後、大本山総持寺祖院へ。このお寺は、現在 鶴見にある大本山総持寺のもとのお寺です。元亨元年(一二三二)年



今村源宗監院老師を囲んで記念写真 於、大本山總持寺祖院

に瑩山禅師様が開創。明治三十一(一八九八)年四月十三日に火災に遭い、伽藍の大部分を焼失。この火災を機に、明治四十四(一九一三)年に現在の鶴見にご本山の機能が移され、鶴見の総持寺を「大本山総持寺」、能登の総持寺を「大本山総持寺(祖院)」と呼ぶようになりました。

平成十九年三月の能登半島地震で甚大な被害を受け、大祖堂(だいそどう・本堂)が再建中のため、仏殿で「般若心経」を読み、

お焼香をさせていただきました。本来、大祖堂におまつりされる道元禅師様、ご開山 瑩山禅師様、二祖 峨山(がさん)禅師様のご眞像(お像)とご眞牌(お位牌)が大祖堂再建中のため、仏殿にご遷座されておられ、特別にお参りさせていただくことが出来ました。その後、歴代禅師様のお写真がかけられているお部屋で、今村源宗監院(いまむらげんしゅうかんにん)老師のご法話を拝聴し、特製「三松煎餅」とお茶をごちそうになりました。今村老師は、ユーモアを交えながら、能登の歴史的地理・祖院の歴史などを詳細にお話くださいました。さらに道元禅師様の『正法眼蔵』「生死」巻から「生死は仏のおんいのちなり」という言葉を引かれ、いただいた命の大切さというものを尊んで、その尊さを自分だけ享けるのではなく、人にも施して、お互いを大事に暮らすということを心がけていただきました。曹洞宗の最も大切な教えについてお説きくださいました。

それぞれのお寺で「般若心経」を読み、ご住職にあたる和尚様からご法話をいただき、「おてらの団参」ならではの旅となりました。ひとりでも多くの人と仏教や曹洞宗やお寺の素晴らしさを共有したいという願いがかなった、有難きしあわせな三日間でした。

三十七名の旅の友に、また、無事に旅を円成することが出来たことに感謝したいと思えます。次回は、来秋、副住職が修行した愛知専門尼僧堂をおたずねする旅を企画する予定です。ひとりでも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

秋葉火防大祭のご案内

十一月十八日(月)

ご祈禱をお受けください

◎ 祈禱の時間

午前の部 十時半と十一時半

午後の部 一時半と二時半

○ 祈禱の時間は多少前後します

あらかじめ、ご了承願います

○ どなたでもおまいりいただけます

○ 「火の用心」のお札をお授けします

○ 古いお札は「おたき上げ」いたしますので、お寺へお持ちください

○ ご不明な点は、お寺へお気軽におたずねください

ご参詣の上、ご祈禱をお受けいただき、物心両面にわたる秋葉三尺坊大権現様のご加護をうけられますよう、ご案内いたします。

編集後記



お彼岸を待っていたかのように、境内の彼岸花が一斉に咲きはじまりました。その時節が来たならば、必ず花を咲かせる大自然の不思議を感じながら、感情や気分でものごとをまわそうとする人間の勝手さと弱さを感じています。

永平寺で拝聴したご講話に、「仏となるにいとやすき道あり。よろずをいふこころなく、ねがふ心なくて、心におもうことなく、うれふることなき、これを仏となづく」(『正法眼蔵』「生死」という道元禅師様のお言葉がありました。祖院で、今村老師が紹介された言葉と同じ出典の言葉です。「ほとけ」という存在がいかなるものか、いまのわたしにはわかりませんが、感情優先の人間の生き方とは、ほど遠いところにあるのだと思います。けれども、カづくでものごとをなそうとする、その力を抜いて、すべてを「おまかせ」することが出来たとき、そこに「ほとけ」と出会うことが出来るのかもしれない。そのことに気がつきながらもなかなか実行できないのは、おまかせする勇気のない自分の弱さと「我」の強さによるところなのだと思います。時節がらどうぞご自愛くださいませ